

第25回作家展

会期／前期 平成28年10月14日(金) 後期 平成28年10月21日(金) 会場／さいたま市大宮盆栽美術館 主催／日本盆栽作家協会

前期 (後期はP15より)



五葉松 (銘：福寿丸)

鉢：紫泥長方

山田登美男 (埼玉県)

高山植物で松の王様といわれる五葉松は、日本を代表する品位の高い松として、大変に人気があります。盆栽で日本の景色を表現するに最も適しているからです。この福寿丸は過去2回の国風展に出品されていますが、今回は20年ぶりに新たな姿になっての出展となります。





長寿梅 鉢：和均釉袋式楕円 今井 千春（神奈川県）

この長寿梅を入手して8年になります。株立としてのまとまりを考慮し、小枝作りをしてきました。2年前に「国風展」（毎年2月に東京上野の東京都立美術館で開催される国内最高峰の盆栽展）への出品を果たしましたが、更なる樹格向上を目指し培養しているところです。

長寿梅

鉢：白交趾胴紐楕円

小林 國雄（東京都）

この長寿梅は30年前に入手。石の動きとしっかりとしつかりと石に食いついた状態が気に入り、今日まで培養をしてきました。赤い花に対し、白交趾楕円鉢で調和をとってみました。





五葉松（銘：素老） 鉢：萬留平造 須藤 雨伯（栃木県）

一雨降ったあとの緑の美しさ、松の葉の光り、気取ったように葉先をそらせて空を向いている姿、耳に聞こえない生命の喜びがひたひたと満ちてくる御仏の心が姿を現している。



真柏

鉢：紫泥外縁木瓜式樹盆

秋山 実（山梨県）

真柏の特徴として、「水吸い」と呼ばれる、褐色の生きている幹が捻れながら成長することがあげられます。また葉性が良く、葉の小ささ、細かさが景色を大きく表現するのに向いています。これらの良いところを活かしながら、数年かけて間伸びした枝を小さく棚分けする事を心がけて作り上げました。



五葉松 鉢：行山長方 阿部 健一（福島県）

27 年前に樹高 3m 位あったものを切り詰め、同時に正面と左側の太い走り根を切り、根回し（根の周囲を切り詰めて細根を発達させておくこと）を行い、その 2 年後に鉢植えをして、最初の整形を行いました。その後、切り詰めた幹上部と走り根の下部より枯れ込んでゆき、長い年数の中で現在の白骨化したシャリ幹となりました。「空間有美」すなわち自然らしさの表現を常に心がけています。

五葉松 鉢：銅水盤
吹田 勇雄（宮城県）

この作品は、中国山東省泰安市の名峰泰山を訪れた際に、山の景色に感動してその風景を写したいと挑んだものです。断崖にへばり付く様子を表現したいと思い、枝を簡略化し、作り込みました。雄大な自然美を感じて頂けたら幸いです。広く異国の文化や風趣に触れ、それを取り込みながら自分なりの盆栽道を極めて行きたいと考えています。





赤松 鉢：朱泥長方 福館 治（岩手県）

本作は、入手当初は丸幹でしたが、自然味を出そうと、白色のシャリ部分を彫刻して、時間を掛けて少しずつ広げていき、現在の姿となりました。落ち枝の動きも面白く、本作の見所の一つとなっています。



皐月（八咫の鏡）
鉢：広東緑釉隅切長方
神 康文（東京都）

本作は、原木から作りはじめて4年になります。幹模様がより引き立つように枝の配置に緩急を持たせながら作りました。

作家展主旨

本協会が主催する作家展は、生きた伝承芸術、盆栽作家の精神高揚と高度な盆栽美を作出することにあります。

盆栽作家は人間性の豊かな感性を磨き、自然愛を基本とした芸風を作品に表現されることが、最も大切であり、お互いを研鑽し合い、盆栽文化の一層の発展を切望するものであります。

しかし、盆栽作家をめざす条件は大変に厳しく、自然との調和を図り、永い修練の中から体得し、その積み重ねから美の心を包含する作業であります。今日の作家群が明日の社会にクリエイティブなボンサイ・アートとして、環境保全等に貢献できることを期待いたします。

第25回 作家展 後期

(前期・P7より続き)



黒松

鉢：中国紫泥長方

小林 國雄（東京都）

この黒松の樹皮は、荒々しく、とても男性的です。木の樹高と幹味を生かす為に芽数を少なくし、葉を力強くし、黒松らしさを表現してみました。





皐月（秀峰の光） 鉢：白釉八角鉢 塚田 博巳（茨城県）

自然の風情や風を感じる盆栽を作りたいと挑戦しました。風を感じていただければ幸いです。



花梨

鉢：和長方

山崎 純一（富山県）

本作は20年位前に畑上もの（繁殖された後、畑に植え替えられ太らせた素材）を入手し、以来培養に取り組んで作り上げたものです。今後は枝のほぐれや鉢映りなどを再度検討し、樹格向上に努めていきたいと思います。



栲 (くぬぎ)

鉢：和鉢

松田 大実 (神奈川県)

クヌギの盆栽は大変めずらしく、この樹は特に古さもあり幹模様はゆるやかに伸びがあります。この時期に観る葉の色彩は日一日と変化します。山里の秋を感じさせてくれる一鉢です。

五葉松

鉢：和長方

馬場 守一 (群馬県)

樹形的には好みもある形ですが、樹齢の古い木なので気に入っています。枝葉が綺麗な状態になりましたので今回出品しました。





赤松（鞍馬石付） 矢内 信幸（大阪府）

海岸線の松林を感じる作品。赤松の素材を丹念に選別し、苦労と楽しみが同居した 20 年前の創作盆栽です。風の動きを感じる清々しさが伝わればと思います。

花梨

鉢：角切広東鉢

米沢 増雄（東京都）

永年かけて中型盆栽にまとめ上げた作品です。根張りの力強さが見どころのひとつです。角切広東鉢との調和も美しく、これからの紅葉が待ち遠しいです。





山もみじ 鉢：広東長方 菊岡 成泰（奈良県）

本作は、根張りよく、鉢持ち込みの時代を感じさせる山もみじの盆栽です。親幹から右に流れる景色を想像して作っております。秋の深まりが楽しみです。



花梨

鉢：広東

野上 寿明（富山県）

10 年位前に畑上げ物を譲り受け、太い枝を切り戻し、ようやく今日の形になりました。今後はもっと小枝を作り込んでいきたいと思っています。